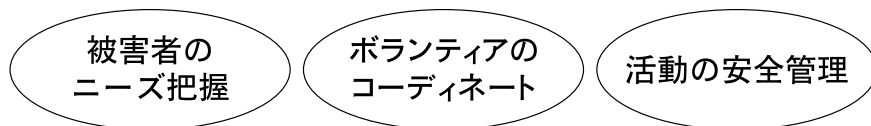


1 ボランティアセンターはなぜ必要なのか

災害が発生すると、必ず被災者を支援しようとするボランティアが生まれます。阪神・淡路大震災以降、その数は非常に多くなってきています。ボランティアによる支援力を有効に活かすためにも、被災地に駆け付けてくれる大量のボランティアをコーディネートする組織や場所が必要となります。それがボランティアセンターです。

[1] コーディネートをするためのボランティアセンター

図4 ボランティアセンターの三大役割



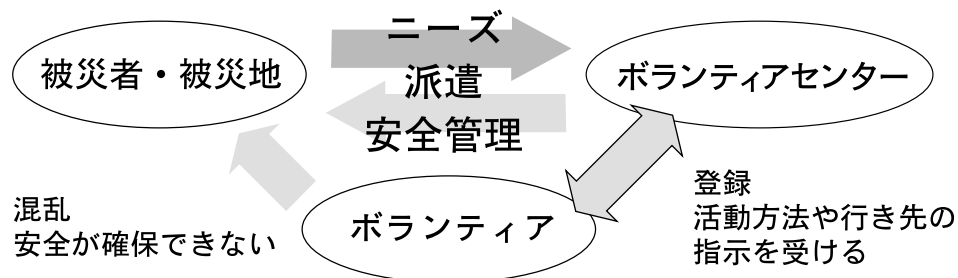
被災者・被災地を支援しようとする被災地外から来たボランティアが、勝手に支援先を探し救援活動を始めたとしたら一体どうなるのでしょうか。被災地内は駆け付けたボランティアの車両や、活動先を探す人たちで混乱し、救急車両や救援車両、復旧車両などが通行しにくくなります。また、注目される場所にだけにボランティアが集中し、目立たないけれど同じように困っている人には救援の手が届かない状態にもなるでしょう。

そこで、ボランティアセンターが、ボランティアを整然と被災地内さらに活動先に誘導することが必要となります。

また、被災された方々や被災地からは様々なニーズが発生します。ニーズを確実に把握し、それに応えるための体制を整備し、必要なボランティア活動を円滑に展開できるようにすることが大切です。

さらに災害時におけるボランティア活動は、通常よりも高い危険の中での活動となります。ケガや事故がおきないように、ボランティア活動の安全を確保することもボランティアセンターの重要な役割となります。

図5



[2] ボランティアセンターの種類

災害時のボランティアセンターは、災害の規模や被災地の状況に応じて設置をしなければなりません。被災地を直接支援するため設置されるものと、間接的に支援するものがあります。その主なものは以下ようになります。

① 現地ボランティアセンター

- ・主に市町単位で設ける災害ボランティアセンターです。
- ・被災者への直接的な支援活動の主体となり、ボランティア活動の拠点となります。

② 本部ボランティアセンター

- ・主に県単位で設けるセンターです。
- ・複数の自治体（市町）で、現地ボランティアセンターが設置・運営された場合に設置されます。
- ・各現地ボランティアセンターが円滑に活動できるよう支援する機関です。

③ 外部バックアップセンター

- ・東南海・南海地震など複数の都道府県で甚大な被害が発生した場合に、被災エリア外に設ける支援センターです。
- ・被災地内が混乱しないよう関係機関と連携し、必要となる支援活動を大規模に展開します。

図 6

